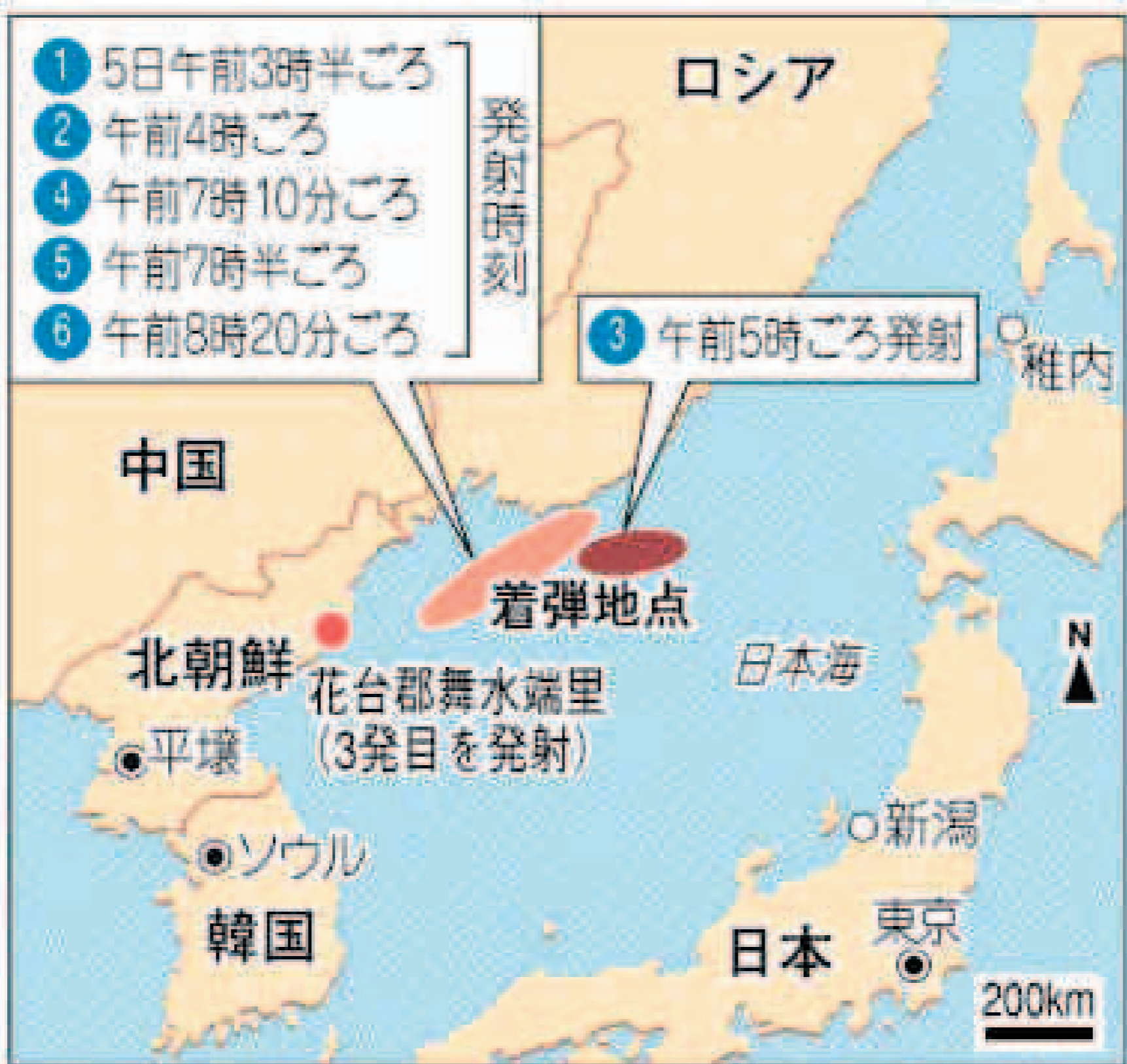


北朝鮮が発射

日本海に着弾



(防衛庁資料による。着弾地点は推定、●数字は発射順)



1998年8月31日、北朝鮮の咸鏡北道から発射されたテポドンミサイル (朝鮮通信=共同)

北朝鮮が五日午前三時半ごろから断続的にミサイルを計六発発射、いずれもロシア沿海州南方の日本海に着弾した。具体的な被害は出ていない。日本政府は五日中に経済制裁を発動する方針で調整、国連安全保障理事会の開催を要請した。防衛庁によると、着弾地点がほかと異なる三発目が長距離弾道ミサイル「テポドン2号」とみられる。残りは中距離弾道ミサイル「ノドン」の可能性が高い。安倍晋三官房長官は記者会見で「北朝鮮に対し嚴重に抗議し、遺憾の意を表明する」と強調。拉致問題をめぐる対応にも影響を与えそうだ。

安倍氏はまた米国のシニア駐日大使と安保理への付託をめぐり会談。小泉純一郎首相と関係閣僚は午前七時すぎからの安全保障会議で北朝鮮側の意図を分析するとともに、対応を協議した。

防衛庁の発表では、ミサイル発射は五日午前三時半ごろ、同四時ごろ、同五時ごろ、同七時十分ごろ、七時半ごろ、同八時二十十分ごろの計六回。これだけの連続発射は極めて異例。着弾地点は北海道の西方五百―六百キロや新潟県沖北西部約七百公里の海上などで、いずれも発射から約十分後に海上に落下した。テポドン2号は空中分解したとの情報もある。北朝鮮の弾道ミサイル発射は一九九八年八月のテポドン1号以来。

政府は安保会議後に官房長官声明を発表。「わが国の安全保障や国際社会の平和と安定、大量破壊兵器の不拡散の観点から重大な問題だ」と北朝鮮を強く批判し、ミサイル発射凍結延長を明記した二〇〇二年九月の日朝平壤宣言に違反する疑いが強いと指摘した。